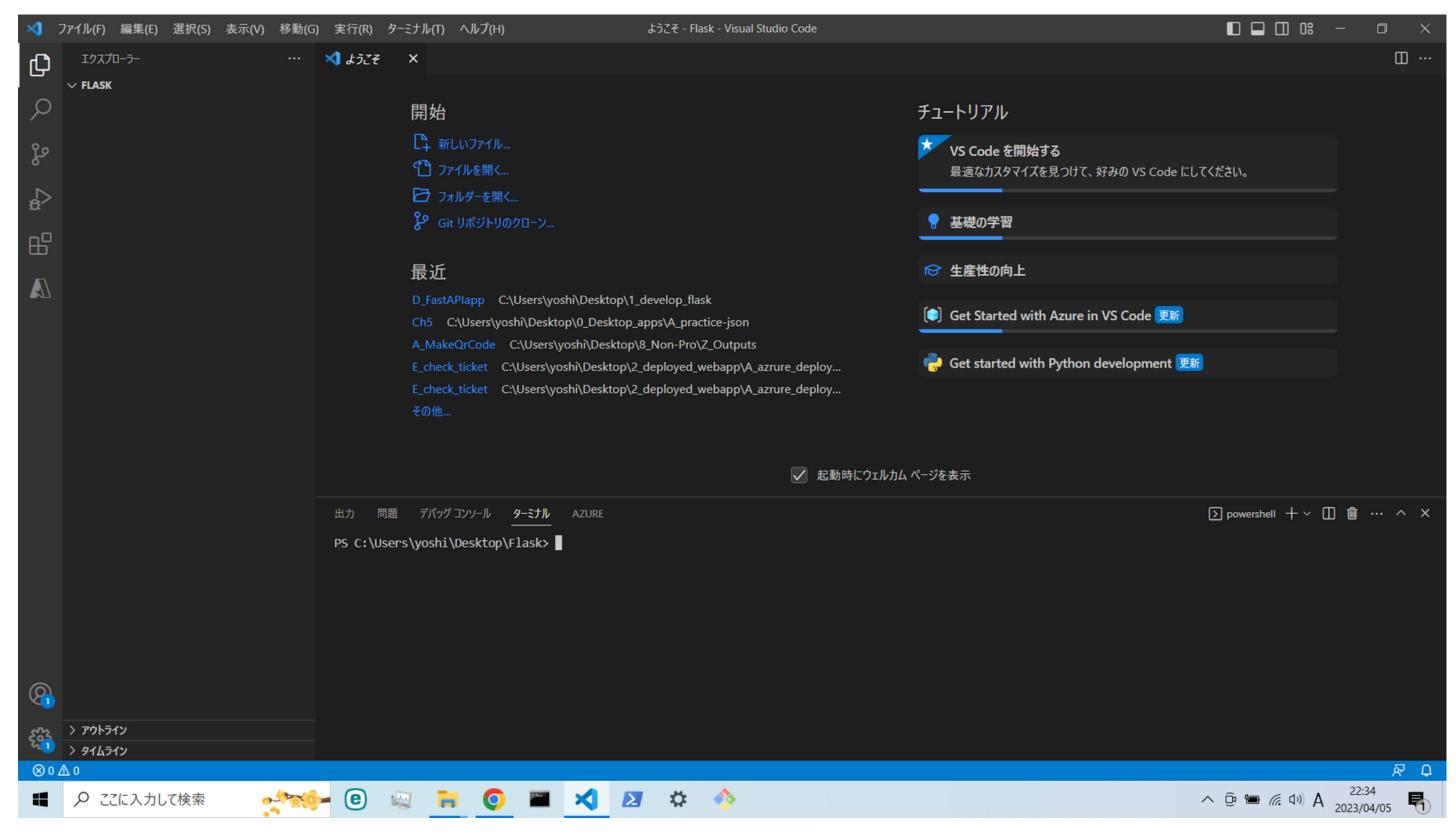


①任意の場所にフォルダを作成し、 VSCodeで当該フォルダを開きます



②メニューバーの「表示」から「ターミナル」を選択してCLIを表示し、 下記コマンドを実行します

```
出力 問題 デバッグコンソール ターミナル AZURE

PS C:\Users\yoshi\Desktop\Flask> py -m venv venv

PS C:\Users\yoshi\Desktop\Flask> cd venv/scripts

PS C:\Users\yoshi\Desktop\Flask\venv\scripts> .\activate

(venv) PS C:\Users\yoshi\Desktop\Flask\venv\scripts> .
```

上から順に次の内容を実行しています。

- 1.venvモジュールを実行して仮想環境を作成するためのファイルを作成
- 2.仮想環境を有効化するためのファイルがあるディレクトリへ移動
- 3.仮想環境を有効化するファイルの実行
- 4.仮想環境が有効化されると、(venv)が表示されるようになります。

③元のディレクトリへ戻った後、pipでFlaskをインストールします

```
出力 問題 デバッグコンソール ターミナル AZURE

PS C:\Users\yoshi\Desktop\Flask> py -m venv venv

PS C:\Users\yoshi\Desktop\Flask> cd venv/scripts

PS C:\Users\yoshi\Desktop\Flask\venv\scripts> .\activate

(venv) PS C:\Users\yoshi\Desktop\Flask\venv\scripts> cd ../..

(venv) PS C:\Users\yoshi\Desktop\Flask> pip install flask
```

全て小文字で入力します

④app.pyを作成し、下図のコードを記述します

```
エクスプローラー
                                app.py
                                 app.py > ...

✓ FLASK

                                   1 # Flaskのインポート
 > __pycache__
                                   2 from flask import Flask
 > venv
                                     - # Flaskのインスタンス化。
 🕏 app.py
                                   4 app = Flask( name )
                                   5 # URLと実行する関数をマッピング
                                      @app.route('/')
                                      def index():
                                          return "Hello, Flask!"
                                      # Flaskの起動
                                       if name == ' main ':
                                  10
                                          app.run()
                                  11
```

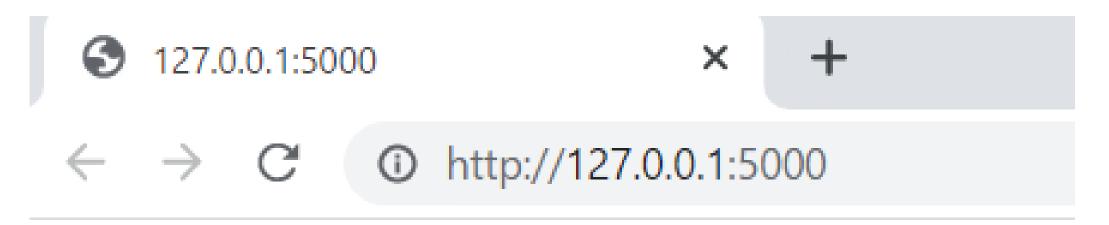
※「__pycache__」フォルダはFlaskを起動すると自動で生成されるものなので、 改めて作成する必要はありません

⑤CLIからapp.pyを実行します

```
(venv) PS C:\Users\yoshi\Desktop\Flask> py -m app

* Serving Flask app 'app'
* Debug mode: off
WARNING: This is a development server. Do not use it in a production deployment. Use a production WSGI server instead.
    * Running on http://127.0.0.1:5000
Press CTRL+C to quit
```

ブラウザで矢印のURLにアクセスすると、 Webアプリが起動している事が確認できます



Hello, Flask!

```
# URLと実行する関数をマッピング
@app.route('/')
def index():
    return "Hello, Flask!"
```

↑このコードの内容が反映されます

⑥CLI上でCtrlキーを押しながらCキーを押すとサーバーが停止し、 Webアプリが終了します

その後、CLI上で「deactivate」を実行すると仮想環境が無効化されます

以上がFlaskを使ったWebアプリを起動するまでの一連の流れとなります。



※なお、作成したWebアプリファイルを削除したい場合は フォルダごと削除して大丈夫です